

第19期第13回常任理事会

議 事 録

日 時 昭和53年1月19日 15.00～17.00

場 所 気象庁総務部入札室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 朝倉, 内田, 奥田, 河村
杉本, 立平, 股野

報 告

- [庶務]
- 12月19日, 第20期選挙管理委員長から, 役員選挙の日程について報告がきた。
 - 1月13日, 日本学術会議地球物理学研究連絡委員会委員長から, 第11期地球物理学研究連絡委員会委員の推薦依頼がきた(〆切り3月末日)。
 - 建造物の耐風性に関する第5回シンポジウム開催についての運営委員は, 気象研究所物理気象研究部の花房龍男氏, 事務局から萩原長治郎氏を推薦した。
 - 会費の前納については, 1月18日, 通常会員3,120名に対し未納者270名で, 前納率は約90%である。未納者の主なものは, 個人会員248名, 大学関係18名, その他4名である(個人会員1,141名に対し未納者は248名である)。

[会計] 12月分の収支について, 順調に経過しており, 会費前納も円滑にしているとの報告があった。

[天気] 成田開港についての原稿は, 気象大学校 片山昭氏に依頼。気象衛星の利用法について誌上でアンケートをとるようにしたい。

[気象集誌] 56巻1号は, 5編に, 短編3編である。52年度は, 文部省への申請頁数560頁に対し550頁となり, 一応責任を果たしたことになる。

気象集誌と外国の学会誌(4誌)の論文数, 頁数について過去15年間について調査結果が報告されたが, 各誌とも頁数は頭打ちで最近10年間伸び悩んでいる。また, 投稿日と印刷日の差(月数)について, 1966年～1976年にわたり調査結果の報告があった。それによると, 気象集誌は, 11月の常任理事会でも中間報告したとおり, ここ数年6か月となってい

る。外国誌では, 8か月から1年となっている。

[気象研究ノート] エーロソル, 応用編の執筆を依頼した。

[奨励金各賞] 昭和53年度日本気象学会奨励金受領候補者募集の告示を『天気』に掲載するにつき「気象学, 気象技術の進歩に貢献し……」のほか, 「気象教育技術に関する研究」の項もつけ加えることを了承。

議題 1. 名簿の作成について

郵便取扱規則に違反しないよう, 既定方針どおり名簿よりも本誌の頁数を多くするように努力する。なお, 気象官署に電話番号を, また, 関係の大学・研究所等を掲載するようにする。

2. 昭和53年度の活動方針について

5月の大会を控え, 学会の活動方針を検討しておく必要がある。すなわち, 月例会について検討の余地がありはしないだろうか。夏期講演会, シンポジウム等の在り方についても見直す必要があるのではないだろうか。また, 大会を分科会的に分けて行なうようにすることも懸案事項となっている。

3. 地物研連気象分科会委員の改選について

第11期地球物理学研究連絡委員会委員の推薦依頼が, 磯野謙治委員長からあった。気象分科会委員9名を推薦するに当たり, 理事長指名により委員会を構成し, 2月末の常任理事会に答申して貰うことになった。

委員会の構成メンバーは次のとおりで, 理事長名で委嘱状を出すことになった。

浅井 富雄, 内田 英治, 神山 恵三
股野 宏志, 山本竜三郎 以上5名

4. サテライトシンポジウムについて

WMOから通知があれば, 協力することとするが, 今のところ, 何らの連絡もきていない。

承認事項 柴崎健一ほか6名の入会を承認。